



木もれびの森の草花

ニガキ(ニガキ科ニガキ属) 初秋のゆっくり森歩き

先日10月22日の令和天皇の即位の礼はあいにく雨模様でしたが、今日は朝から気持ちのいい秋空が広がり、大山がくっきりと姿を見せています。JR古淵駅から歩き始めると、タラヨウが赤い実をびっしりとつけ、ハナミズキは赤い実をまばらに残して紅葉しています。相模原緑道に沿って森へ向かうと道端の垣根にアオツツラフジの実が濃紺色の小さな葡萄の房のように揺れています。中央緑地に入ると黄葉が始まったニガキの木が迎えてくれました。自然観察会時には、参加者に葉っぱを一枚、かじってもらいます。すると皆さん「ワッ、ニガーイ！」と叫び、舌で森を味わう格好の教材です。この苦さ、昔から健胃薬として使われてきたのも納得できます。冬芽もとても特徴的な形なのですが、こちらはルーペが必要です。初夏に小さな緑白色の花をたくさんつけますが、高くて見づらいのが残念です。



ニガキの黄葉

この木の近くにタイアザミが沢山咲いていました。花を拡大して見ると管状の雄しべの中から雌しべが白い花粉を繰り出しながら突き出ています。虫がやって来て花にとまると感知してモコモコと花粉を送り出すのです。



トキリマメ

おや、トキリマメの赤い果皮が割れて黒い種子が姿を現しています。赤と黒のコントラストが魅力的です。シヨロウグモが立派な巣を張り、オンドコロが緑色の実をつけ、クサギの赤と青の追羽根つきの球のような実が美しい。初秋の森もとても楽しいです。(鳥飼)



タイアザミ

木もれびの森の薬用植物(15)

オトコエシ(スイカズラ科オミナエシ属)

同属のオミナエシ(女郎花)は秋の七草の一つであり、花は黄色ですが、オトコエシ(男郎花)は白花です。オトコエシはオミナエシと花の形態はよく似ていますが、子房に接する小苞が花後大きくなって果実を取り巻き、うちわのような翼になるのがオミナエシとは異なります。オミナエシやオトコエシの茎を折って生けた水は腐った豆醬のような嫌な匂いがし、これは足の裏の匂いの原因でもあるイソ吉草酸が含まれるためです。全草を乾燥させたものを「敗醬草」、根を乾燥させた物を「敗醬根」といい、解毒、利尿作用を持つ生薬として使われて来ました。



オトコエシ

日本では「敗醬」の原植物はオトコエシまたはオミナエシですが、現在中国市場の「敗醬草」は北方地区ではキク科のハチジョウナ、南方地区ではアブラナ科のグンバイナズナが用いられています。しかし、古来の本草書ではこれらに当てはまらない記述があるようです。漢方方剤では薏苡附子敗醬散(よくいぶしはいしょうさん)に用いられています。(川村)

